

【阪神高速道路のベンチマークデータ取り扱いについて】

ベンチマークデータ一覧について

データには、「磁気媒体（MO）」と「リスト」の2種類のデータがあり、データ一覧の「メディア」の覧に表記しています。

「磁気媒体」データには、そのファイル名、ファイル形式、ボリューム（件数）を表記しています。

（ExcelファイルはBook形式で保存して、そのSheet毎にSheet名とボリューム（件数）を表記しています）

「リスト」データには、そのデータ名を表記しています。

1. 車両検知器データ（1994.11.1）

(1) 5分間交通量データ

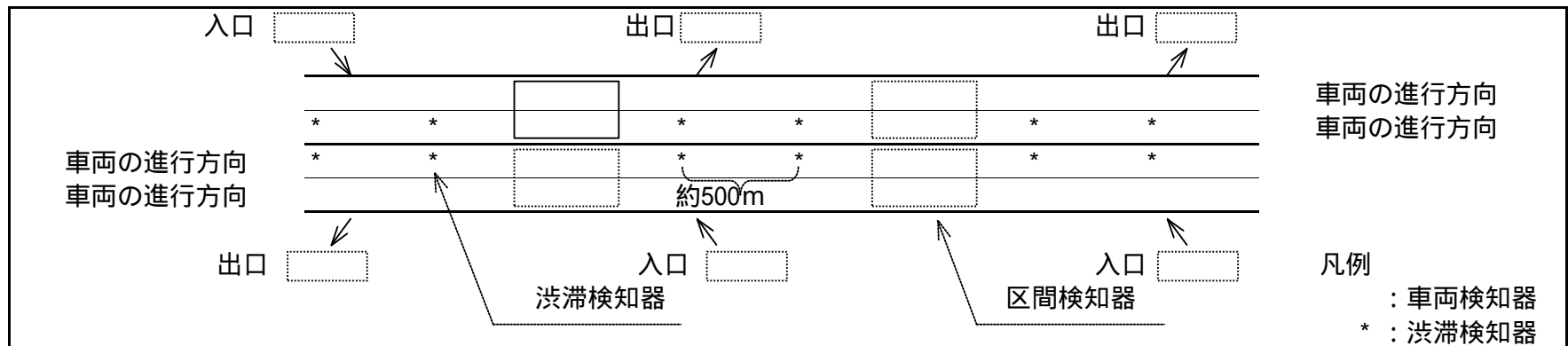
平成6年11月1日7:00～翌日6:55の5分間毎の車両検知器データです。

本線上の車両検知器は約500m間隔で原則として追越車線に設置されており、出入口間に1箇所は全線に区間検知器として設置されています。（渋滞検知器は約500m間隔で追越車線に配置されています。）

5分間交通量データは、出入口区間別データと検知器別データの2種類あります。

出口、入口、区間には一個以上の車両検知器が配置されており、その場所毎に集計されています。

（下図の点線または実線で囲んである車両検知器で計測されたデータの合計です。）



(出入口区間別：lk941101.txt)

出口、入口、区間別に集計されたデータです。

データは、1.(3)の検知器情報の出口、入口、区間別番号別にあります。

区間については、5分間毎に、交通量、高車交通量、時間占有率、平均速度のデータがあります。

出入口については、交通量データのみを使用してください。

項目毎のカラム数などについては、1.(2)のファイルフォーマットを参照して下さい。

(検知器別：t-941101.dat)

車両検知器別に計測された個々のデータです。

データは、(3)の検知器情報のそれぞれのDET番号（検知器番号）別にあります。

5分間毎に、交通量、高車交通量、時間占有率、平均速度のデータがあります。

但し、出入口データ（検知器インデックス：2,3）は交通量データのみを使用してください。

項目毎のカラム数などについては、1.(2)のファイルフォーマットを参照して下さい。

(2) ファイルフォーマット

(出入口区間別：区間別5分間データファイル)

(1)のファイルのデータ様式です。

(検知器別：検知器別現況復元ファイル)

(1)のファイルのデータ様式です。

(3) 検知器情報

(出入口区間別：出入口区間一覧.xls)

出入口区間別に設置されている車両検知器位置、車両検知器番号などの情報があります。

区間毎の「番号」とネットワークの「リンク番号」は同じ番号で対応しています。

出口、入口毎の「番号」とネットワークの「リンク番号」とは同じ番号では対応していません。

出口、入口を対応させる場合は、4.(2)の対応表を使用してください。

DET(数字)が各々の検知器番号です。

(4) 検知器エラーデータ

(検知器別：MDT941101ERR.xls)

平成6年11月1日7:00～翌日6:55の車両検知器エラーデータです。

ExcelBookファイルのSheet名とその概要は以下のとおりです。

Sheet名 : 概要

エラー : エラーがあった車両検知器番号と時刻を抽出しています。

エラー存在区間 : 1つ以上のエラーがあった車両検知器を抽出しています。

データ無検知器 : データが存在しない検知器を抽出しています。

指定無検知器 : 存在しない車両検知器番号を抽出しています。

2. 起終点調査データ (1994.11.1)

(1) ランプ間OD表

(車種別時間帯別 : hanko.xls)

平成6年11月1日の時間帯別車種別ランプ間OD交通量です。

時間帯は、1時間毎(0:00~23:00時台まで)、料金所流入時刻でソーティングされています。

車種は次の9種類です。

二輪車, 軽乗用車, 乗用車, バス, 軽貨物車, 小型貨物車, 貨客車, 普通貨物車, 特種(殊)車

(2) 起終点調査情報

(: H6_起終点調査概要.xls)

調査日時、路線、渋滞記録(事故、自然)のデータです。

(3) ランプデータ

(出入口別 : rampname.xls)

「ランプ間OD表」の出入口ランプの説明データです。出入口別に起終点調査の「内部コード」がついています。

「内部コード」とネットワークの「ノード番号」は対応していません。

対応させる場合は、4.(2)の対応表を使用してください。

3. AVIデータ (1994.11.1)

(1) AVI 5 分間データ

(: AVI所要時間比較.xls)

平成6年11月1日7:00～翌日6:55のAVIデータに基づく5分毎の主要地点間平均所要時間です。
放射線乗り 5 区間と 3 号神戸線乗り 3 区間の以下に示す 8 区間のデータです。

11号池田線乗り (豊中 : 11.2kp 福島 : 2.5kp)

12号守口線乗り (守口 : 9.8kp 長柄 : 1.9kp)

13号東大阪線乗り (長田 : 6.6kp 森之宮2.6kp)

14号松原線乗り (三宅 : 9.0kp 文の里 : 2.2kp)

15号堺線乗り (堺 : 10.3kp 汐見橋 : 1.4kp)

3号神戸線乗り (尼崎東 : 6.8kp 中之島西 : 1.6kp)

3号神戸線乗り (摩耶 : 28.4kp 西宮西 : 17.5kp)

3号神戸線乗り (柳原 : 35.8kp 摩耶 : 28.4kp)

マッチング台数、AVIによる平均所要時間データ、渋滞状況があります。

4. ネットワークデータ

(1) リンク情報データ

(: NetworkData.xls)

阪神高速道路網 (H10.9現在)を模式化したネットワークデータのリンク情報です。

起終点調査時 (H6.11) を使用する際には、新規路線等は無視して下さい。

(新規路線についてはデータが入力されていないものがあります)

以下の項目のデータがあります。

区間	: リンク番号
上流	: ノード番号
下流	: ノード番号
距離	: 上流から下流の距離 (単位 : km)
容量(時)	: 1時間に通過できる交通容量 (台/時)
容量(日)	: 1日に通過できる交通容量 (台/日)
標準速度	: その区間の標準速度 (規制速度 : km/h)
車線数	: 路線の車線数
方向	: 交通の流れる方向 (1 = 上流 下流、2 = 下流 上流)
路線番号	: 路線の号線を使用 (例 . 1 = 1号環状線など)
上下	: 路線の上下コード (1 = 上り、2 = 下り)

リンクは検知器の区間「番号」と対応しています。

(2) ランプ対応データ

(検知器：検知器対応.xls)

検知器の出入口「番号」とネットワークデータの「リンク」を対応させたデータです。

出口、入口別にあります。

(起終点：起終点对応.xls)

「起終点内部コード」とネットワークデータの「ノード」を対応させたデータです。

出口、入口別にあります。

(3) 座標データ

(ノード、リンク、ランプ名：座標.xls)

X軸とY軸に座標をもたせたデータです。

ノード座標は、X座標、Y座標が1ペアあります。また、ノードタイプを本線とアプローチに分けています。

(タイプ：1=本線ノード、2=アプローチノード)

リンク座標は、起点(ノード)から終点(ノード)またはそれに中間点をもたせたX座標、Y座標が2ペア以上あります。

4ペアが最大で、座標の個数は「点数」の項目に表記しています。。また、表示位置(?)、

ランプ名座標は、101ノードを基準点にX座標、Y座標が1ペアあり、ランプ名を記入します。

(4) プロッター図

座標データをもとにノード、リンク、ランプ名をプロットした図です。

5. その他

(1) 渋滞データ

(渋滞日報)

平成6年11月1日7:00～翌日6:55の路線別時間帯別の渋滞データです。

(交通管制日報)

平成6年11月1日、2日の大阪,兵庫,湾岸地区別の原因別渋滞発生状況データです。

(2) 阪神高速道路図

(検知器別区間別：路線図.mcd)

渋滞検知器毎の区間（約500m間隔）を区切った阪神高速道路網図です。

リストとファイルの2種類のデータがあり、ファイルの使用アプリケーションは「Minicad7.0」です。

(3) 区間検知器位置図

高速道路の区間と検知器位置を対応させたデータです。

路線が全てそろっていないので、参考図として使用して下さい。